

高志小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①単元構想および授業目標を明確にし、他者との対話や深い思考による豊かな表現力を育成するための、言語活動の充実
- ②主体的に学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を育てることができるカリキュラムマネジメントによる単元開発

学力向上検討委員会構成

--	--

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	与えられた課題には、まじめに取り組むことができる。漢字の読み書きや四則計算は、ある程度身についている。	文章(長文)を読むこと、書くこと、話すことに抵抗なく取り組むことができる。学習の振り返りを、学んだ言葉を使って豊かに表現できる。	学習課題に沿った振り返りが、学んだ言葉を使ってできる児童を90%以上にする。	振り返りができる児童は、80%近くになってきている。2学期は、90%に近づくように指導を引き続き行う。辞書引きや視写の指導も軌道に乗り、子どもたちの力になってきている。	①辞書引きを行うことで、生活の中で使える言葉が少しずつ増えてきている。視写を実施し、書くことに抵抗なく振り返りを行えるようになってきた。 ②ほとんどの単元で振り返りを行った。	振り返りについては、教科によってばらつきはあるものも、話し合いの振り返りを含めて80%はできるようになった。学習課題に対しての言葉の取り入れもできるようになってきており、質が上がってきている。
課 題	個人差が大きく、何事にも時間のかかる児童がいる。語彙が少なく、長文を読み取ったり書いて表現したりすることに、苦手意識がある児童がいる。	①語彙の習得のために、辞書引きや音読や視写も取り入れた読書活動(読み聞かせ・週末読書)を充実させる。 ②毎時間学習課題を提示し、それに沿った振り返りの時間をもつ。	①週日程の中に読書活動を位置づけ、指導時間を確保する。 ②授業の80%以上で、振り返りの時間をもつ。	評価	次年度における改善事項	
				B	計算や漢字の読み書きの技能については、ドリルタイム等で引き続き行うようにする。更に、様々な問題のパターンに出会わせるために、チャレンジタイムについては応用問題も取り入れるようにする。振り返りの言葉については、来年度も振り返りシートを配布し、全学年共通して使用するようになる。更に、振り返りの内容の質を上げるために、低学年のうちから、今日はこの言葉を使うなど具体的な指導も増やしていくようにする。	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	自分が体験したことや自信があることについては、進んで表現できる。友だちの意見を聴き、思考のヒントを得たり自分の考えと比べたりできる児童が増えている。	友だちと比較したり、根拠を明らかにしたりして、考えを表現できる児童を70%以上にする。	友達と意見を比較しようとする意欲は高まっているが、その後改めて考え直したり、根拠を示したりすることに課題がある。グループワークは、機会が増え、意見の交換が活発になり成果が見られるようになってきている。	①全ての教科で、国語の系統表を意識した指導を行った。 ②グループワークの中で、友達の意見と比較する指導を行った。 ③ノート指導については、校内で統一し、振り返りについても	評価	次年度における改善事項
課 題	根拠を示して意見を述べたり、友だちの意見を比べてまとめたりすることに課題がある。板書の視写に終わらず、友だちの考えを取り入れたり自分の考えを書き足したりしてノートをまとめることが十分ではない。	①単元ごとにモデルとなる文を提示して、文章構成を指導する機会を設定する。 ②グループワークの際に、自分と友だちの考えや表現の違いに着目し、比較したりまとめたりする指導を行う。 ③板書の構造化に取り組むとともに、考えの跡が見えるノート指導や単元末に単元全体の振り返り指導を行う。	①単元に1回以上、文章構成の指導を行う。 ②1日に1回以上、自分と友だちの考えの違いに着目する機会を設定する。 ③1週間に1回以上、ノートを点検する。	B	国語の指導において、叙述に基づいて考えることを指導するようにする。そうすることで、根拠を更に示せるようにする。発表するときには、前の人に続けて、自分の考えや意見を比較して発表できるようにする。表現については、国語の系統表を使って相手意識をもった表現の仕方を指導する。振り返りについても、友達の考えを受けてどう考えたかを示すようにする。またロイロノートに学びを蓄積させることで、友達だけでなく自分自身との対話もできるようにさせ、4月の自分の考えや思いと3月の自分とも比較できるようにする。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	興味のあることやグループ活動には、積極的に取り組むことができる。学習の流れを理解すると、先を見通して必要な学習に自ら取り組める児童が増えている。	自分から進んで学習に取り組める児童を80%以上にする。	高学年では、自分なりの課題設定をすることが80%弱できる児童が増えてきた。カリキュラムマネジメントには、取り組んでいるが、記録が十分ではないので、時間を取って一斉に行うようにする。	①カリキュラムマネジメントについては、全学年が行うことができた。 ②単元のゴールも高学年になると、子どもたちで設定して学習を進めることができた。	評価	次年度における改善事項
課 題	指示されなければ、何をすべきかの考えが至らない児童が多い。自分で課題や時間を作り出すことはまだできていない。	①カリキュラムマネジメントを適切に進め、児童が進んで取り組もうとする、体験・交流を多く取り入れた単元設定を行う。 ②単元のゴールを明確にし、児童が見通しを持って学習できるようにする。	①カリキュラムマネジメントを行った単元については、学年フォルダに月に2回は指導の過程等を記録する。 ②先を見通して学習に取り組んでいる児童の学び方を、各教科等で月に2回、学級で紹介する。	B	4月に、カリキュラムマネジメントの計画をたてることで、教師自身が見通しをもてるようにする。長期休みには、計画を見直すと共に、次年度への引き継ぎがスムーズになるようにする。単元の始めに、子どもの疑問や知りたいことを出させて、そこからゴールを設定できるようにし、子どもと一緒に学習課題を設定できるようにする。	

平成31年度 学力向上ロードマップ

